

2023/6/12 (月)

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 4章 35-41節 (新約聖書 68頁)

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

向こう岸へ渡ろう

イエスと弟子たちが旅をしていたのは緑豊かな小高い丘が広がり、ガリラヤ湖のある地方でした。東西を山と丘で挟まれ湖の水面は海拔より低いすり鉢状で、昼間は潮の流れがないので湖面は静まり返っていますが、夕方からよく突風が吹きました。

当時の人びとは夜の闇には悪霊が出る、突風は悪霊の仕業だと恐れていました。イエスと弟子たちを乗せた舟は今にも沈みそうです。でもイエスは舟の後ろで寝ていました。必死にイエスを起こす弟子たちと眠っているイエスはとても対照的です。

皆さんは夜になると心細くなることはありませんか。突風にあおられるように心が揺れて不安になりませんか。神様にお願いしてもイエスのように寝ていて、何もしてくれないと感じたことはありませんか。私は何度も眠れない夜にいつの間にか眠りに入ったことがあります。

でも朝になり光が差し込む頃、何も変化はないけど新しいことがすでに用意されていると思える時があります。イエスがわたしの心に吹く突風を叱り、心を静めて下さっていたのかもしれない。安心して一緒に向こう岸へ渡ろうと励ましています。

(しばらく黙想しましょう)

すべての知恵の源である主よ、あなたはわたしたちが求める前から必要なものを知り、あなた自身が、どう祈ればよいか分からないわたしたちを助けてくださいます。どうか弱いわたしたちを憐れみ、あなたのみ心に適うものを与えてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン